

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272701095		
法人名	医療法人 仁泉会		
事業所名	グループホーム小春びより2号館		
所在地	青森県三戸郡新郷村大字戸来字金ヶ沢坂ノ下9番地		
自己評価作成日	令和4年8月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20-30		
訪問調査日	令和4年10月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近年、新型コロナウイルスによる感染予防のため、地域の行事はほぼ全部中止となり、交流の機会が減っている状況だが、地域の一員として今までの関係を継続していくために、職員だけではあるが地域の資源ごみの回収に参加させていただき、地域の方と交流を図っている。また、利用者は家族や知人等とのつながりが途絶えないよう、感染予防対策に努め、面会を断らないようにしており、タブレットでの面会も受け付けている。運営推進会議もメンバーや家族とは書面でのやりとりであるが、意見をいただき、運営や業務改善等に活かせるよう取り入れている。理念でもある「その人らしくありのままに」利用者が安心して生活できるよう、これまでの生活習慣や能力を見極め、役割や楽しみを提供し、日常生活において生きがいを持って生活できるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成16年設立時から、地域交流と地域貢献を大切にしており、町内会や消防団、行政と連携が取れている。毎年の「地域開放デー」では家族や地域住民が参加して、楽しい時間を提供している。また、水害土砂災害に備えて、高台への避難訓練も行っている。書面で運営推進会議を行い、届いた意見への返答や写真での状況報告を載せて「運営推進会議通信」として委員や全家族に配布して交流している。コロナ禍で多くの事が自粛される中、敷地内外の散歩やミニ運動会で身体を動かしたり、ホーム内では餅つきや蕪玉作り、おやつ作り等を行い、全職員で利用者の暮らしを支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域との交流を図り、家庭的な雰囲気の中でその人らしくありのままに安心して生活出来る第2の我が家」を理念に掲げている。毎朝、朝礼で唱和して、全職員で共有し、サービス提供に反映できるように努めている。	開設当初から地域の方々の理解や協力を得ており、地域の一員として認識されている。ホーム独自の理念を掲げ、朝礼で唱和しており、職員は理念を実践できるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響で交流は自粛しているが、職員のみで地域の資源ごみの回収に年2回参加したり、毎月小学校から手紙が届き、書面での交流を図っている。	コロナ禍のため自粛しているが、保育園や小・中学校、村の行事へ参加したり、毎年、ホームの開放デーに地域住民を招いて歌や踊り、飲食等を企画している。また、小学校から便りが届けられ、書面での交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症について勉強会を行っていたが、新型コロナウイルス感染防止のため、前年度は書面にてやりとりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍ということもあり、書面で事業所の情報提供をしている。委員会メンバーや全家族から意見を募る工夫をしている。	コロナ禍のため、運営推進会議は書面にて行っている。ホームでは「運営推進会議通信」を発行し、メンバーや全家族に写真付きで近況を報告している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	普段から不明点や何か迷った時は相談し、助言を得ている。	村の担当課職員から新しい情報をいただいたり、不明な点や迷った時に相談する等、良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を定期的に開催している。また、部署会議で全職員が身体拘束の内容や弊害について理解し、年2回研修を実施して習熟テストを行っている。	身体拘束は行わない方針で、年4回の委員会、年2回の部署会議での研修を開催し、その都度習熟度テストを行い、理解を深めている。玄関や居室は施錠をせず、自由に出入りできるようにしている他、利用者が落ち着かない時は、見守りをしたり、一緒に散歩して話を聞く等して気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会会議を毎月開催しており、部署会議でも虐待防止法について理解を深め、虐待が発生しないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	部署会議で定期的に勉強会を実施している。該当する利用者はいないが、必要な場合は情報提供できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書や重要事項説明書、料金表に基づいて説明し、同意を得ている。料金改正の際はその都度説明し、書類で同意を得ている。また、退居時は家族の同意を得て、退居先に情報を提供している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で全ての家族から書面で意見をいただけるようにしており、部署会議でいただいた意見について話し合い、書面にて返答している。	コロナ禍でホームへの来訪が制限されているため、電話で利用者の体調や受診結果の報告等をする際に、家族から意見や要望を聞くようにしている。毎月の便りには写真を載せ、利用者の暮らしぶりを伝えており、家族が意見を出しやすいようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部署会議ではグループの運営会議での内容の報告し、感染対策や事業所全体の問題解決について話し合いをしている。また、各棟会議ではケアの検討や業務改善について話し合いをしており、普段から疑問に思う事を意見交換している。	定期的に会議や研修会等を開催し、職員が意見を出せる機会や学ぶ機会を設けている他、年2回、管理者と職員で個人面談を行い意見を聞いている。また、出された意見をホームの運営やサービスに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回職員との面談を実施している。面談以外にも普段から相談を受けている。また、その時の状況に合わせて業務を改善したり、意見を聞く等し、職員が働きやすい環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりのステップアップにつなげるよう、研修にzoomで参加している。研修後は報告書の作成と部署会議で伝達講習を行い、全職員に周知するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内での運営会議で情報交換や意見交換を行っている。また、不明な点等があれば他部署の職員に相談して情報や意見をいただき、全職員に周知して、サービスの質の向上させるよう努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の希望があった際は、利用者や家族と面談して身体状況やニーズ、思いを把握し、話しやすい環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談で相談や要望を聞き、話しやすい環境を作り、信頼関係が築けるよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族のニーズがホームのサービスで適切であるかを見極め、対応できない時は丁寧に説明し、他の関連事業所や地域包括支援センターに相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の趣味や好きな物、できる事を把握し、職員と一緒に楽しめるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の生活の様子や身体状況を家族に報告し、情報交換を行い、気づきや思いを共有できるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍であり、直接の面会はお断りしているが、家族や知人と窓越しやタブレットを使用し、面会できる環境を整えている。	以前は親戚や知人の来訪の他、墓参りや買い物等に出かけ、これまでの交流が継続できるように支援していた。現在はコロナ禍のため、タブレットや窓越しでの面会ができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、トラブルになりそうな時は職員が間に入り、フォローしている。居室で過ごすことが多い利用者にはホールへ誘ったり、訪室して声掛けを多くしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時に家族に対し、いつでも相談に応じることを説明している。家族に了解を得て、退居先に利用者の状態や生活状況、ケアの方法等を文書で提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントや生活の様子、会話等から本人の思いや意向を把握するよう努めている。また、困難な場合は利用者の表情や動作から、意思を汲み取るように努めている。	職員は利用者が安心した気持ちで思いを表せるよう、日々のケアを心掛けている。また、普段の言動や表情から思いや意向を汲み取って職員間で共有しており、日々のケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人または家族から、生活習慣等の情報を収集するよう努めている。これまでのサービス利用の経過等の把握にも努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの過ごし方や生活リズムを把握している。また、できる事や理解している事を把握し、利用者の能力を発揮できるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意向や利用者の言動等から思いを汲み取り、棟会議で職員の気づきや意見を話し合い、介護計画を作成している。また、利用者に変化があった時は、その都度介護計画の見直しをしている。	利用者や家族の思い、要望を基に全職員で話し合い、介護計画を作成している。また、利用者や家族の言葉を記載し、利用者本位の個別具体的な計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は介護計画に沿って記録しており、実践した事や結果を個別に記録している。職員の気づきや意見を申し送りノートに記入し、情報を共有したり、ケアの見直し等に活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関との連携体制を整えており、利用者が健康で、また、家族も安心して生活できるよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外部のケアマネジャーや地域包括支援センターと連携を図り、必要な時に対応できる関係を構築している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や既往歴を把握し、利用者や家族が希望する医療機関を受診できるよう支援している。家族が受診対応をする場合は連絡票を作成し、身体状況をお知らせしている。また、受診結果の情報も共有できるようにしている。	これまでの受療状況を把握しており、利用者や家族が希望する医療機関の受診を支援している。また、ホームで受診の介助をしており、受診結果は家族と共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と契約しており、週1回来居して利用者の健康状態を把握し、情報共有をしている。状態に変化があった時は相談し、アドバイスをいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は医療連携室と、入院中の様子や退院等について、情報交換できる体制ができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び看取り介護に関する指針を入居時に説明し、文書で同意を得ている。ホームでの看取り介護はできる限り対応しているが、難しい場合は家族や医療機関と連携を取りながら、安心して最期を迎えられるよう、入院の支援をしている。	入居時に指針について説明し、ホームの方針を明確にしている。ホームでは家族や医療機関と連絡を取りながら、入院の支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルに沿って、全職員が対応できるようにしている。また、応急手当や救急救命訓練は定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練は昼夜を想定して年2回実施しており、地震水害避難訓練は年1回実施している。避難経路の確保の他、消火器や発電機の設備点検、非常食や飲料水、毛布等を準備しており、定期的に点検している。	年2回昼夜を想定した避難訓練を行っている。ホームのそばに川があるため、水害土砂災害に備えた訓練も行っている他、村全体の訓練にも参加している。また、災害時に備えて、食料や水、衛生用品、毛布、発電機等を用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の言動を否定したり、拒否するような声掛けをしないよう、その人のペースに合わせた対応をしている。気になる声掛けや対応があった時は普段から職員間で話し合い、適した声掛けや対応を実践している。	利用者のペースに合わせて、言動を否定せず、話をよく聞くようにしており、理念である「その人らしくありのままに」ということを大切にして支援している。また、利用者のプライバシーや羞恥心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの能力に応じて、意思決定ができるような声掛けやセッティングをしている。意思決定ができない利用者には、表情や反応を読み取って対応をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせ、その日の希望に沿って支援している。意向やペースに合わせられない時は説明し、了解を得ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好みや場面に合わせ、その人らしい身だしなみを支援している。散髪も本人の意向に沿って行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好き嫌いを把握し、食べやすいように調理したり、盛り付けを工夫している。ホームでとれた野菜も職員と一緒に下準備をしている。職員と一緒に会話をしながら食事をしている。	法人の管理栄養士が献立を作成し、職員は嚥下状態に合わせた食事形態で提供している。また、布巾をたたむ等、利用者ができる事を職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの1日の食事量や水分量を記録している。同グループの管理栄養士が献立を立てており、栄養摂取の状況等の相談もできている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者一人ひとりの能力に沿った口腔ケアを、声掛けをしながら行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。自分でトイレへ行けない方には声掛けをして案内し、なるべくトイレで排泄できるよう支援している。	排泄パターンに応じて事前に誘導をしており、日中はなるべくトイレで排泄できるように支援している。また、利用者の状況に合わせて、オムツの使用を見直している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の時は原因を探り、食事量や水分量、運動量を検討し、対応している。下剤を使用する場合は医療機関や訪問看護に相談し、一人ひとりに合った使用量となっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	時間や温度等、一人ひとりの希望に沿って対応している。また、洗身ができる場所はやっていただく等、その人の能力に合ったケアを心掛けている。入浴を好まない方は無理強いせず、時間や日を改める等、工夫し安心して入浴できるよう支援している。	利用者の希望を聞きながら、基本的に週2回は入浴できるようにしている。また、利用者の習慣や好みに配慮しながら、安全で気持ちよく入浴してもらうように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活リズムや体調に合わせて、休息できるよう支援している。利用者が安心して気持ちよく眠れるよう、日中の活動内容も配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方箋をカルテに綴じ、全職員が薬の内容を把握できるようにしている。変更があった時は申し送りノートに記録し周知できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの能力に応じた役割をしていただき、また、楽しむ時間を過ごせるよう支援している。利用者の嗜好を把握し、他者に配慮した上で取り入れ、提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため外出を控えているが、施設の畑まで行って職員の作業を見たり、一緒に収穫している。また、天気の良い日は玄関外のベンチで過ごす等、気分転換を図れるよう支援している。	コロナ禍で外出が難しい状況だが、敷地内外の散歩をして、利用者の気分転換を図っている。また、ホーム内で餅つきや繭玉作り、運動会を行う等、工夫ながら利用者の楽しみとなるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者や家族の希望があれば、利用者の能力に応じて少額を自己管理してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙を希望する時は、利用者に合わせて支援を行っている。手紙を読めない利用者には了解を得て、代読している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った装飾や、手作りの装飾を心掛けている。居心地よく過ごせるよう物音や音量、室内の明るさ、温度等に配慮している。ソファやたたみを設置し、好みの場所で過ごせるよう環境作りに努めている。	ホールや廊下は広く、明るい雰囲気であり、利用者はソファや畳、食卓で思い思いに過ごしている。季節の花や手作りの作品を飾っている他、物音や声、明るさ、温湿度に配慮し、居心地良く過ごせるように支援している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士が会話を楽しめるよう、ソファや廊下に長椅子を設置している。また、利用者同士の関係に配慮して位置を変える等、工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れた物や大切にしていた物を持って来てもよいことを説明している。居室には家族との写真や位牌等を置き、安心して生活を送れるよう支援している。	使い慣れた物の持ち込みを働きかけており、居室にはテレビや位牌、枕等の持ち込みがある。また、その人らしく安心して過ごせるよう、職員が居室作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレや風呂場等、場所を間違わないよう表示の工夫をしている。利用者が安心して生活を送れるよう、職員同士で情報交換を行いながら、環境作りに努めている。		